別紙様式1

令和4年度　学校評価表

（ 中間 ・ 最終 ）

三原市立本郷小学校　　校番（17）

a 学校教育目標	夢大きく心豊かな児童の育成 ～知・徳・体　キラリと光る三つ巴っ子～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 自分を愛し，夢を語る児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 地域を愛し，確かな学力と豊かな心を持ち心身共に健康な子どもを育成し，地域・保護者から信頼される学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	すすんで学び，よく考え豊かに表現する学力を育てる。	◎基礎・基本の学力向上 ★学力テスト等目標値達成率の向上 （社会科・算数科）	○学習の重点と系統性を意識した各学年の指導 ○単元末テスト，学力調査の結果を分析・活用 ○フォローアッププリント等の活用 ○三つ巴っ子タイム・チャレンジタイムの充実	単元末テスト（算数科・社会科）の平均点が80点以上の児童の割合（%）	80	算数 74% 社会 81%	算数 70% 社会 81%	算数 88% 社会 101%	算数 B 社会 A	社会科は，県の研究大会に向け教材開発に力を入れて取り組んだ成果もあり，数値が上がった。算数科においては，授業モデルをもとに問いを大切にした主体的な学びを目ざし，授業改善に取り組んできたが，数値が下がった。基礎基本の定着や記述問題への理解が不十分であった。	学力テスト等の分析を行い，課題項目を受けた授業改善，基礎基本の定着，協働的な学びの活性化図り向上を図っていく。また，児童の課題を明確にし，ドリルタイムや家庭学習の充実を図り指導の徹底を行っていく。	○			・授業モデルを基に組織的に授業改善に取組んでいると感じる。 ・ICT活用に積極的に取り組んでいる。 ・ICTの活用は，調べ学習で使っているのか？図書室の利用は，しているのか？紙の本を読まないようになっているのではないかと心配している。 ・読書をする機会を取り入れていく必要がある。 ・図画工作科の釘打ち等，となりのクラスに影響するのではないか。学習環境を改めた確認し，配慮することは大切なことである。
		◎誰もが学ぶ喜びを感じる，主体的で対話的な学びの創造 ★論理的思考力・コミュニケーション能力育成の場の設定	○単元構成の工夫 ○他教科・他領域との関連場面の意図的設定 ○学びの変革指導案の全員作成 ○授業モデル・本郷スタイルの継続と徹底・改善	授業が分かって楽しい児童の割合（%）	90	算数 81.7% 社会 86.8%	算数 86% 社会 85%	算数 95% 社会 94%	B	「はい」と答えた児童の中で「進んで問題を解きたいから」問題が解けたらうれしいから」という回答が多かった。「いいえ」と答えた児童は，「授業の中で次に何をするかわからないから」「難しいから」「分からないから」と答えている。児童の回答から，解決への学習の見通しや手立てが不十分なことが原因と考えられる。	児童も教師も見通しを持って授業ができるよう，今後も魂の授業モデルに沿って授業を展開していく。また，児童が「授業が分かって楽しい」と思えるよう，資料提示の仕方や解決への手立て・発問の工夫等し，授業改善を行っていく。	○			
		◎ICT教育の充実・推進体制の確立 ★ICT教育の充実 ★校内の推進体制の確立	○クロームブックを活用した，ICT教育の実施 ○ICTについての校内研修を実施し，知識の共有と工夫・改善	○協働的な学びにICTを活用していると感じている児童の割合（%）	75	82%	90%	120%	A	低学年は64.5%，高学年は94%だった。ミライシード等全学年で取り組んでいる成果もあり，クロームブックを活用していると感じている児童は多かった。低学年は，徐々にできることが増えているので，数値が上がったと考えられる。	来年度は全校児童で「コグトレ」を実施し，ICTを積極的に活用していく。また，授業での効果的な活用や低学年でも扱いやすいようなプログラミングにも進んで取り組ませていく。	○			
豊かな心	地域を愛する心をもつとともに，夢や目標をかなえるための生活習慣を身に着けさせる。	◎考え議論する道徳の推進 ★授業が楽しい95%以上	○問題解決型の指導過程等，指導過程の工夫	道徳科が楽しいと思う児童の肯定的割合（%）	95	91	93	97%	B	10月より2%，肯定的に回答した児童が増えた。「自分と違う意見を聞くことができるから楽しい」など，意見を交流することを楽しみにしている児童が多くいた。授業研や道徳参観日に向けて，校内研修を行い，授業改善を図ることができた。	道徳科の校内研修を行い，児童にとって心に響く道徳の授業づくりを行っていくために，ねらいをおさえ，多様な指導方法の工夫改善を行っていく。	○			・90%以上の児童が道徳の授業を楽しいと感じていることは取組の成果である。 ・6年生が保護者への感謝の気持ちを表す色紙作りを行っていた。父母，家族への感謝の気持ちを表現しているのが，とても素晴らしかった。家の人が見たら喜ばれると思う。素晴らしい取組である。 ・コロナ禍の制限が多い中，地域との関わりを大切にしながら取り組まれたことが成果につながっている。 ・地域の者が遅れて登校している児童生徒に声をかけるとにっこりとして対応できる。学校に遅れてくる児童について今後もきちんと受け入れてほしい。 ・集団登校できない児童が，とても気になっている。家庭との連携を図り，改善につなげていきたい。 ・不登校の取組も早期に積極的に組織的に対応されている。幼稚園と保護者支援の部分で共有できることがあったら共有し，より良い支援となれるよう連携していきたい。 ・学習活動と共に，各学年において様々な学びや地域貢献活動をすることで，心豊かな児童の育成に繋がっている。幼稚園の年長との交流会でも，多くの準備と心を育ててくださっている。園児たちに小学生の温かさが伝わり，進学を楽しみにする姿に繋がっている。
		◎道徳教育・生徒指導の小中連携。 ○道徳時間と体験活動の結びつけ ★自己肯定感90%以上 ★感謝の気持ちの表現95%以上	○児童会活動の主体的活動充実 ○目標となる具体的な姿の提示 ○強化週間の実施 ○児童会活動との連携	○自分にはよいところがあるという児童の肯定的割合（%） ○感謝の気持ちを表している児童の肯定的割合（%）	90 95	82 95	80 91	88% 95%	B B	児童会を中心に，ありがとう運動等の活動を積極的に行った。また，児童の自己有用感を高めるため，生徒指導の三機能を含めた授業作りを積極的に行うようにしたが，上半期の数値から下がった。コロナ禍により，異学年との交流が制限されたことが原因と考える。	異学年でかかわる場を設定するなど，児童会活動の充実や委員会活動との連携を行っていく。また，自己肯定感を具体的に上げる活動を各学級で行う等，児童自らが良いところを挙げることができるようにしていく。	○			
		○コミュニティースクールの導入にむけた，地域（人・もの）を活用した学習の推進 ★GT招聘，地域学習の推進	○各教科，道徳の時間，総合的な学習の時間等で地域活用学習の導入	地域に貢献できていると感じている児童の割合（%）	65	89%	91	140%	A	目標を達成することができた。コロナ禍ということもあり，上半期同様招聘が難しかったが，全学年，総合的な学習の時間等で地域の方を招聘したり，支えてくださっている方との繋がりを想起したりすることで，地域に貢献できていると感じている児童が多くいた。	新型コロナウイルス感染症が落ち着き次第，積極的にゲストティーチャーを招待したり，クロムブックを活用して交流をしたりするなど，多様な方法で児童と地域を繋いでいく。	○			
		◎いじめ・完全不登校の根絶 ★いじめ0，完全不登校児の減少	○家庭との連携 ○支持的風土の学級経営	いじめ完全不登校児童の数値	いじめ0件 不登校の減少	いじめ0件 不登校　2名	いじめ継続0件 完全不登校児1名 長欠席児童4名	60%	C	今年度は早期発見，積極的認知によりいじめと認知したものは4件であった。現在は全て解決しており，いじめは0件である。完全不登校児は1名，長欠席児童は4名であった。いじめアンケートの実施や問題発生時に迅速に対応する等，積極的認知を行い，組織的に取り組むようにした。また，ケース会議も行った。	いじめアンケートや個人面談等を積極的に行い，問題発生時は迅速かつ組織的に対応する。早期発見，早期解決を目指し，保護者との連携を図っていく。不登校や不登校傾向の児童に対しては，個に応じた対応を検討し，組織的に取組をすすめていく。また，保護者には教育相談などを積極的に勧め，家庭や関係機関と連携を図っていく。		○		
健やかな体	体力を高め，食に対する高い意識を育てる。	○基礎体力の向上 ★新体力テスト全種目中66／96全国平均以上	○体育科授業の工夫と改善 ○鉄棒・なわとびの推進	新体力テスト全国平均（平成31年度）を上回る児童の割合（%）	80	54%	50% （握力のみ6/12）	63%	C	課題であった握力の向上を図るようコロナ禍でも実施可能な鉄棒や縄跳び等に取り組んだ。ほとんどの学年が前回の数値を上回ったが，平成31年度の平均を男女とも上回ったのは高学年のみであった。	児童の基礎体力を向上させるために体育科の時間に鉄棒，なわとび，サーキットを取り入れる。また，体育科の校内研修を行い，主運動につながる準備運動を取り入れたり，主運動の活動時間を多くしたりする等の授業改善を図る。	○			・体力について課題があることが数値を見ても把握できた。幼児期においても戸外で元気に全身を使って遊ぶことをさらに進めていきたい。 ・基礎体力の低下はコロナ禍出の運動の機会の減少も影響していると思う。 ・6年生が夜更かしをする　朝，登校班で低学年を連れてきているか。ゲームで夜更かしをしているのか。ゲームによる夜更かし，家庭教育で改善していただきたい。保護者の啓発を続けていく必要がある。 ・クロームブックの活用によって，視力が低下する傾向があるのではないか。視力は低下する児童もいる。 ・体育科の学習の様子から活気ある姿が垣間見えた。コロナ禍が明け，このような様子が少しでも多くなるよう願っている。 ・縦割清掃はよい取組である。再開による成果を期待している。
		◎食育の推進・基礎的生活習慣の確立 ★残菜0の推進0の日週3日 ★早寝，早起き，朝ごはんの推進	○食育指導・保護者啓発活動の実施 ○集中取組期間の実施	○集中取り組み期間に,残菜0（週3日以上）にしたクラスの割合（%） ○集中取組期間に，早寝・早起き・朝ご飯に取り組めた児童の割合（%）	80	95% （量を調節） 早寝61% 早起き68% 朝ごはん85%	75.8% （量を調節） 早寝63.5% 早起き64.9% 朝ごはん80%	95% 86%	B	取組週間に，食べられる量を調節して残菜調べを行い75.8%の児童が残すことなく完食した。魚の残食が多い傾向がある。生活習慣の取組では早起きと朝ごはんの数値が下がった。	給食時間を保障し，給食指導で食べられる量を自分で調節させる。また「食」への感謝の気持ちを育てるために定期的に栄養教諭と連携し食育指導を進める。生活習慣に関しては，今後も保護者への啓発をしていくとともに，課題のある児童には保護者との連携を図る。	○			
		◎清掃活動の質の向上 ★無言，時間いっぱい，隅々	○掃除の仕方の指導の徹底 ○短期集中取組期間の設定	3つの項目を達成した縦割り班・学級掃除の割合（%）	80	82%	86%	107%	A	縦割り班掃除はコロナ禍のため実施せず，引き続き学級掃除に取り組んだ。無言掃除ができると答えた児童は86%である。低学年も掃除の仕方を覚え，箒や雑巾など道具の使い方を身に付けることができた。	来年度は縦割り班掃除を再開していく。高学年が低学年に掃除の仕方を教えたり，時間いっぱい無言清掃に取り組ませたりし，児童の掃除への意欲を育てていく。	○			
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに，15年間を見据えた教育を行う。	◎情報を公開し，説明責任を果たし，満足度向上 ★月1回以上，学校だより・生徒指導だよりの発行	○学級通信，学校だより，メール配信システムやホームページでの情報発信 ○学級懇談会，個人懇談会をとおして説明責任を果たす。	保護者へのアンケートによる子どもの成長への満足度の割合（%）	90	98%	98%	109%	A	各種行事・参観日等の縮小があったが，学びを深め，活躍する場を直接見ていただく場を設定することができた。その中で，ICTも積極的に活用していきながら，児童の様子について積極的に情報発信していった。各学年，学校だよりは計画の100%以上を達成した。	ICTを有効に活用しながら，保護者との連携を深めていく。満足度や意見を定期的に把握するために，年に3度のいじめアンケートの際に保護者の満足度に関わる調査を行い，対応を協議していくことで保護者の願い等に応えていくようにする。	○			・保護者の子供の成長への満足度が98%と高いことはすばらしい。今後も，家庭や地域との連携を大切にしてほしい。 ・6月の45時間以内が守れていない。研究授業などの準備で遅く帰ることが多かった。また，8月は夏休みのため，45時間以内は100%達成できている。 ・2月の教職員アンケートでは，日々の業務に充実感が得られていない教員がいる。充実感が得られるようになってほしい。 ・授業を見せていただいて，教室の机で，空いているところがあった。コロナの影響があるのかではないか。家族が陽性判定により，濃厚接触者という児童がいた。また，胃腸炎などで欠席している児童もいる。 ・服務研修が日々の業務の充実感につながっていることも素晴らしい。 ・先生と児童の関係を大切にするため時間を十分にとってほしい。 ・「働き方改革」をすすめられるようPTAとして協力できることは，協力したい。
		◎タイムリーな服務研修の実施 ★時期に応じた研修内容，全職員の担当割り当て	○不祥事防止委員会が中心となり，マンネリ化，無自覚がない内容を計画	服務や仕事に対する職員への意識を向上させる。満足度の割合（%）	80	89%	94%	118%	A	年間を通して，計画的に服務研修を実施した。また，その時に応じたタイムリーな服務研修も行った。「日々の業務で充実感を得られていますか」という項目は94%が肯定的評価であった。	計画的な不祥事防止委員会・服務研修を実施するとともに，さらなる「業務における充実感」の向上を目標に業務改善を行い，教員の満足度を向上させる。	○			
		○働き方改革 ★次世代の働き方への体制づくり	○時間外勤務の短縮 ○計画的な定時退校日の実施	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100	77%	78%	77%	C	定期的に職員の健康状況を把握し，業務改善を行った。「子どもと向き合う時間が確保されている」という評価が94%だった。今年度，実施した改善内容は，成績処理時間の確保や時程の改善による放課後時間の確保等である。しかし，緊急な対応等もあり，時間内に勤務を終えることが困難であった。	業務内容の効率的な分担や，日課表を見直し，放課後時間の確保等を行い「子どもと向き合う時間の確保」を向上させる。また，職員の意識改革も図っていく。達成できていないものは4か月であり，残り2か月で達成を目指す。		○		

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：わからない。
ハ：自己評価は適正でない。